

海外学生派遣事業 終了報告書

基本事項

所属 : 複合科学研究科情報学専攻

氏名 : 松岡 有希

海外派遣先国名 : アイルランド

海外派遣先大学名 : The Digital Enterprise Research Institute,
(National University of Ireland, Galway)

海外派遣期間 : 2008年2月17日 ~ 3月14日

報告年月日 : 2008年3月18日

海外派遣先大学について

The Digital Enterprise Research Institute (DERI) は、アイルランドのゴールウェイに2003年に設立された研究所です。主にセマンティック Web に関する研究が行われており、ゴールウェイ以外にアメリカのスタンフォード、韓国のソウルにも同名の研究所があります。その中でも、ゴールウェイの DERI は中心的な存在を担っており、セマンティック Web における研究を牽引している研究所です。



研究所は National University of Ireland, Galway の敷地のはずれにある、Business Park 内にありました。建物は三階建てで、中にはカフェもあります。

海外派遣前の準備

博士論文との兼ね合いについて :

私が渡航したのは、博士論文審査後です。博士論文審査前は海外留学をするタイミングを逸したため、博士論文審査終了後から卒業までの短い間ですが、以前から海外における研究活動を肌で感じてみたかったので、この海外派遣事業に応募しました。

海外派遣情報の入手方法

派遣先は、以前出席したことがある国際会議や、海外論文でよく見かけたことのある所属ということで DERI に行くことを第一候補にしました。幸い、指導教官の先生が DERI の教授とお知り合いだったため、連絡をとっていただきました。おかげで、派遣先はスムーズに見つかりました。その後は、DERI の秘書の方とメールをやりとりすることで、宿を紹介してもらったり、現地についてどうしたらよいかなどの相談をしたりしました。

専門分野・語学の準備方法

専門分野について日頃から勉強しているので、問題はありませんでした。語学についても、日頃から留学生と話すことで、英会話の練習をしました。

海外派遣先大学の指導教員との準備

渡航前は、派遣先の指導教員と具体的な活動内容について話し合うことはありませんでした。しかし、事前に、派遣先の研究内容のサーベイをして、自分でしたい活動内容の候補を挙げる準備をしました。

ビザ取得

アイルランドは3ヶ月以内の滞在でしたら、ビザの申請は必要ありません。私は1ヶ月の滞在だったため、ビザを取得する必要はありませんでした。

海外派遣中の勉学・研究

派遣先では、私の研究成果の一つであるシステムから、派遣先のプロジェクトで提唱している SIOC メタデータを作成するという作業をしました。私のシステムは学会発表において聴講者がメモを共有できるシステム、memoQ です。派遣先のプロジェクトでは、Web における Social Network Service や Weblog、掲示板、メーリングリストといった、複数ユーザが共同で利用できるサービス間を連結するために SIOC メタデータを提案しています。SIOC メタデータが用意されていれば、別個のサービスで利用しているユーザが同一人物であることが分かり、サービス間をまたいで情報共有することが可能になります。memoQ を利用することによって、ユーザがメモを入力したということを SIOC メタデータとして記述すると、他の Web サービスとの連携が可能になります。派遣中は、memoQ の Web アプリケーション化することと、SIOC プロジェクトの方と相談することによって、SIOC メタデータの作成を行いました。また、派遣途中に、BlogTalk2008 という国際会議がアイルランドのコークという町で開かれたため、プロジェクトのメンバーと一緒に参加しました。

海外派遣中に行った勉学・研究以外の活動

ゴールウェイは、人口の5分の1が学生といわれるほど、若い人が多い街です。街中へ行くと、

たくさんの学生さんがおり、活気がありました。街並みはカラフルでとても可愛かったです。また、街にはパブがたくさんあり、アイルランドの人の交流の場になっていました。夜になると、パブに行くのが楽しみでした。



ゴールウェイの町並み（左）と有名なパブ（右）

海外派遣費用について

航空券は13万5千円でした。宿泊場所は、時期的に大学の寮が開放されておらず、また、滞在期間が1ヶ月と短かったため、研究所の近くにあるB&Bにしました。宿泊費は17万円程しました。食事に関しては、B&Bでは自炊ができないため、朝食以外はすべて外食でした。昼御飯は研究所内のカフェか街のレストランで、夜御飯はコンビニのサンドウィッチかパブに行っていました。アイルランドは物価高のため、サンドウィッチ一つで700円程します。したがって、食費は5万円程かかりました。滞在期間が短いと安いアパートを見つけることが難しいため、必要以上に費用が嵩むような気がしました。

海外派遣先での語学状況

派遣先の会話は全て英語でした。派遣先の研究所には27カ国の人があり、それぞれの訛りがあったため、聞き取るのに苦労しました。私は英会話が得意というわけではないので、中国や韓国といったアジアの方とのほうが、簡単な文法で話せるため、話しやすかったです。研究の内容を説明するときは、プレゼンテーションスライドを用いたり、図を描いたり、デモを見せたりすることで乗り切りました。

海外派遣先で困ったこと

派遣先の研究所には日本人は私一人だったため、英会話が得意でない私はコミュニケーションをとるのに若干苦労しました。仲間内で自国の言葉で話す人が多く、あちらこちらで中国語、韓国語、ポーランド語、パキスタン語などが飛び交っているのを見ると、うらやましかったです。後

は、日本食レストランが街に一軒しかなく、スーパーでも日本食は全く置いていないので、御飯が好きな私は、パンばかりの食生活に飽き飽きしました。

海外派遣を希望する後輩へアドバイス

海外で研究をするということは、会話や食生活がガラッと変わってしまうので、研究以外のことで大変なことがたくさん生じます。しかし、海外に行くことによって、色々な人と出会うことができるため、それぞれの研究アプローチを知ることができ、大変勉強になりました。博士後期課程から入学した学生の場合は、海外へ行く時期を見つけることは難しいかもしれませんが、いい機会があれば海外へ行って違う空気を吸ってみるのもいいかと思います。